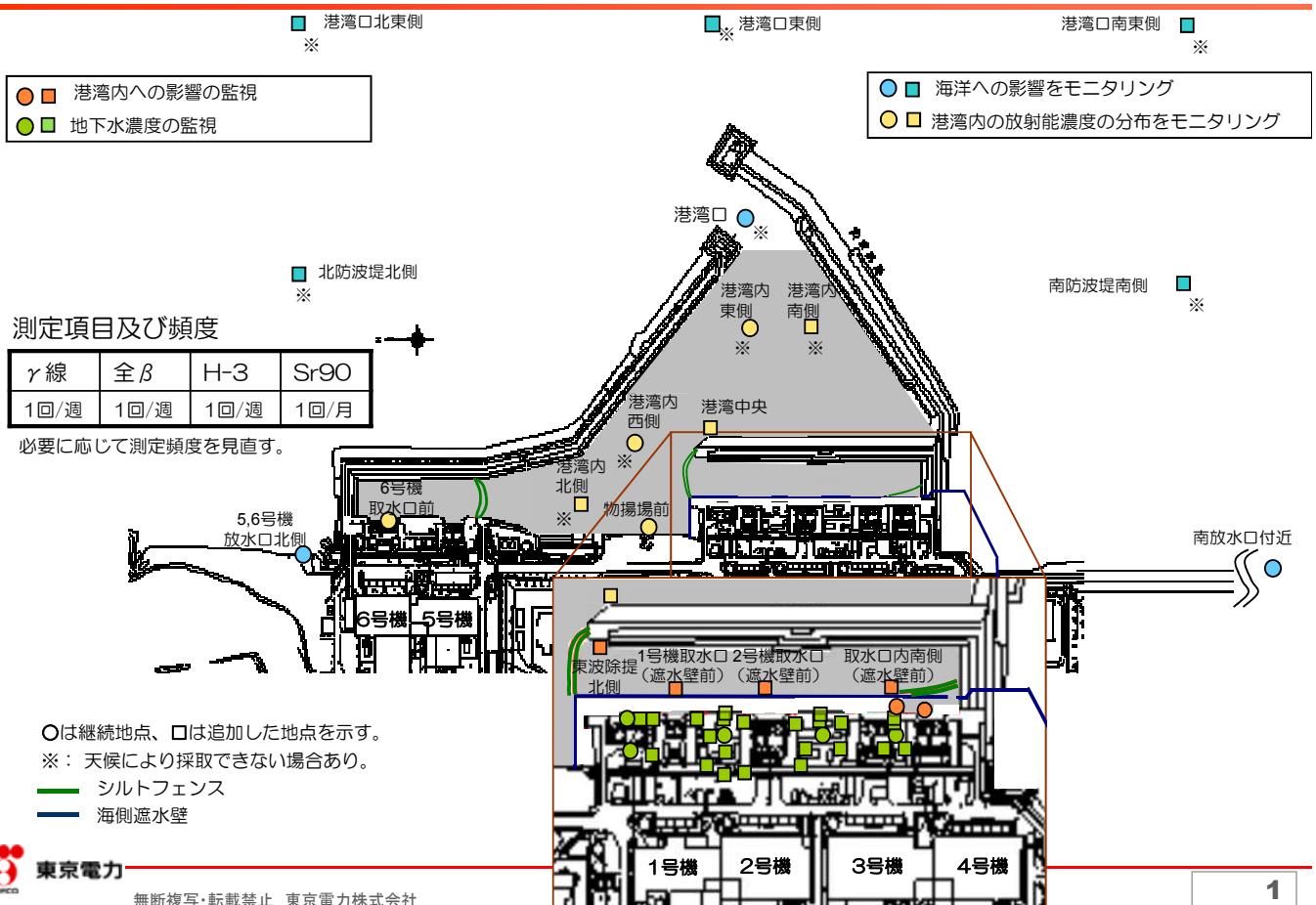


タービン建屋東側における 地下水及び海水中の放射性物質濃度の状況について

2015年8月27日
東京電力株式会社

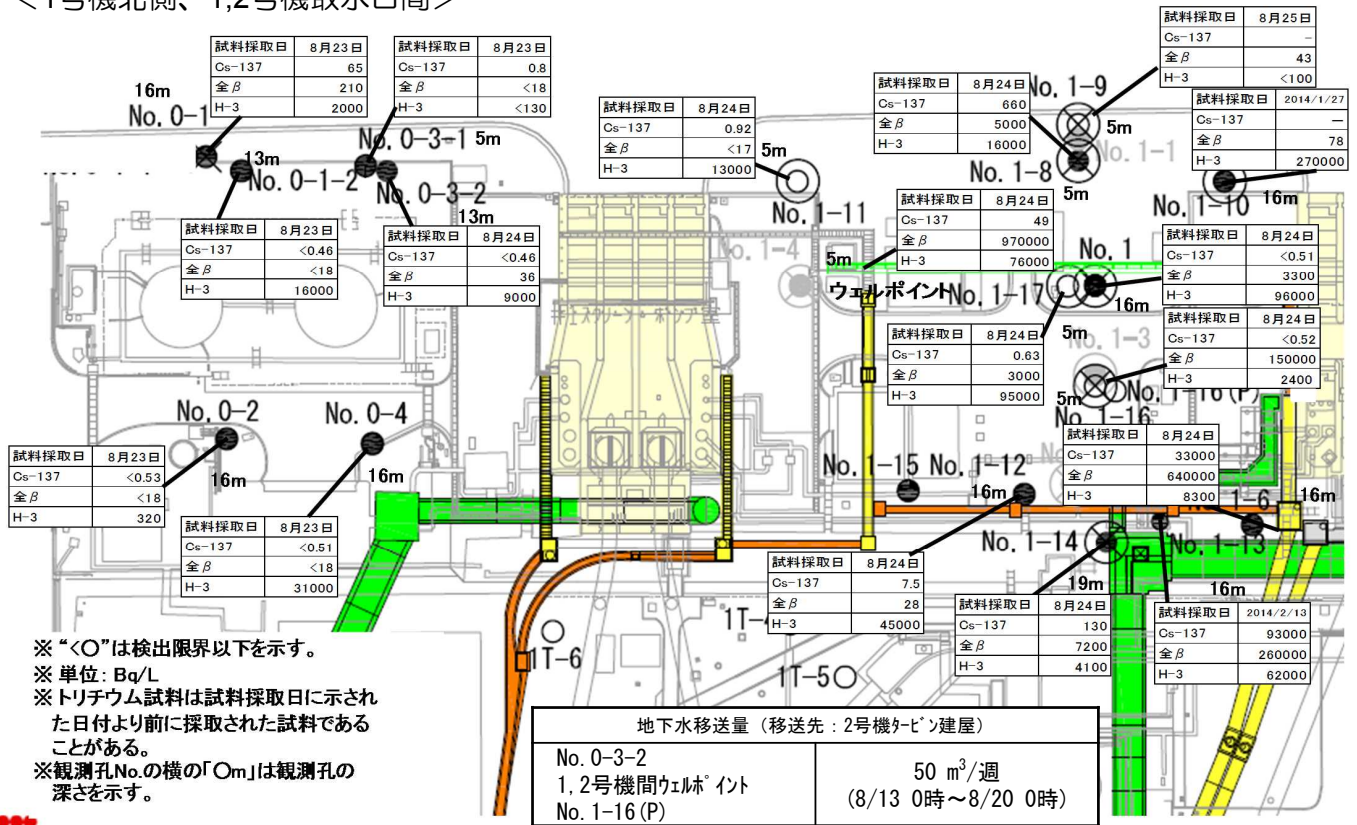


モニタリング計画（サンプリング箇所）



タービン建屋東側の地下水濃度 (1/2)

<1号機北側、1,2号機取水口間>



※“<O”は検出限界以下を示す。
 ※単位: Bq/L
 ※トリチウム試料は試料採取日に示された日付より前に採取された試料であることがある。
 ※観測孔No.の横の「Om」は観測孔の深さを示す。

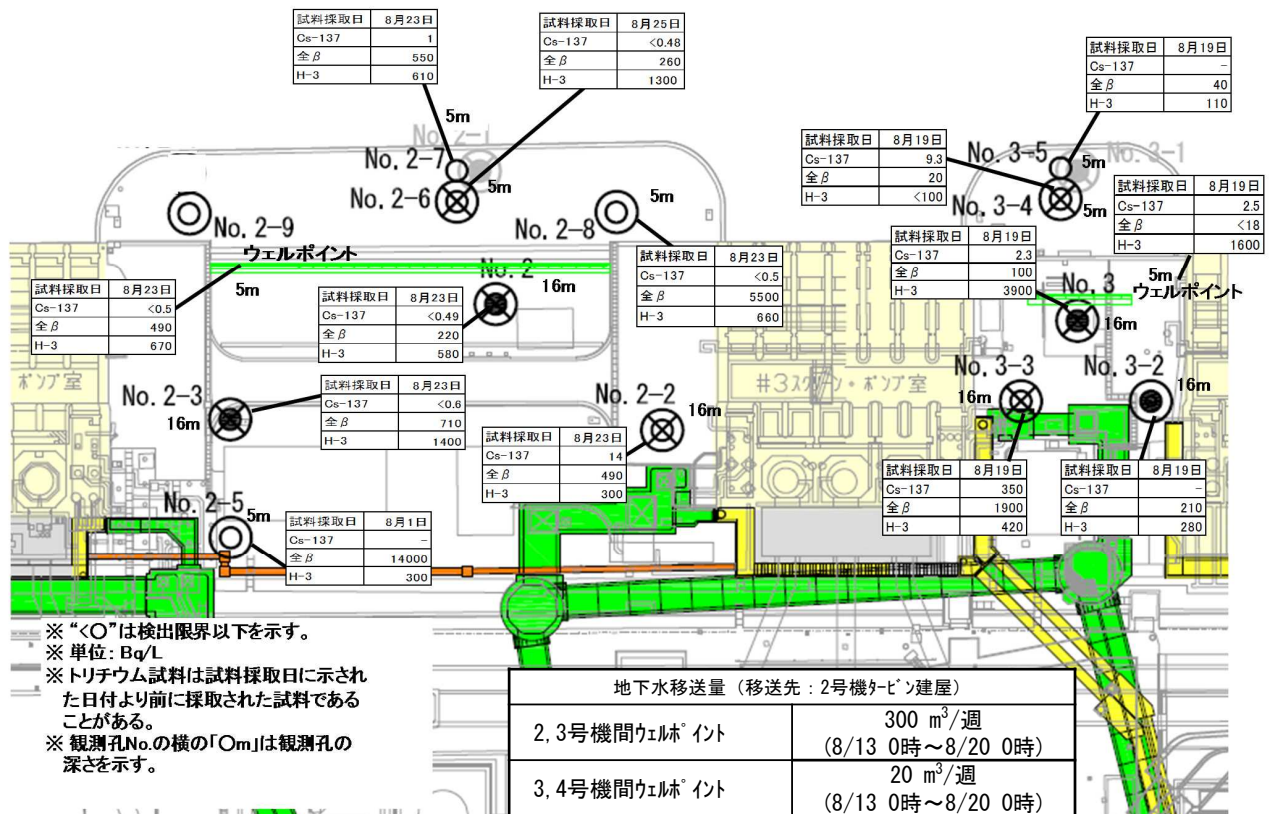


東京電力

無断複写・転載禁止 東京電力株式会社

タービン建屋東側の地下水濃度 (2/2)

<2,3号機取水口間、3,4号機取水口間>



※“<O”は検出限界以下を示す。
 ※単位: Bq/L
 ※トリチウム試料は試料採取日に示された日付より前に採取された試料であることがある。
 ※観測孔No.の横の「Om」は観測孔の深さを示す。



東京電力

無断複写・転載禁止 東京電力株式会社

タービン建屋東側の地下水濃度の状況(1/2)

<1号機北側エリア>

- H-3濃度が高い海側のNo.0-3-2 で、2013.12.11より開始した地下水汲み上げによる効果を継続監視（1m³/日）。H-3濃度は最大で76,000Bq/Lだったが、その後低下傾向になり、現在は10,000Bq/L程度で推移している。
- No.0-4でH-3濃度が2014.9から上昇し、現在は30,000Bq/L程度で推移している。

<1,2号機取水口間エリア>

- No.1、No.1-17で、H-3濃度について3月以降同レベルとなり10万Bq/L程度で推移している。全β濃度について2月以降、No.1は上昇傾向、No.1-17は低下傾向にあって、8月以降同レベルで現在3,000Bq/L程度となっている。
- 1,2号機取水口間ウェルポイントで全β濃度は2014.3以降30万Bq/L前後で推移していたが、11月に入って一時300万Bq/L前後まで上昇し、現在は80万Bq/L前後で推移している。（2,3号機取水口間エリアの地盤改良部の地表処理のため、揚水量を2014.10.31より50m³/日から10m³/日に変更）

タービン建屋東側の地下水濃度の状況(2/2)

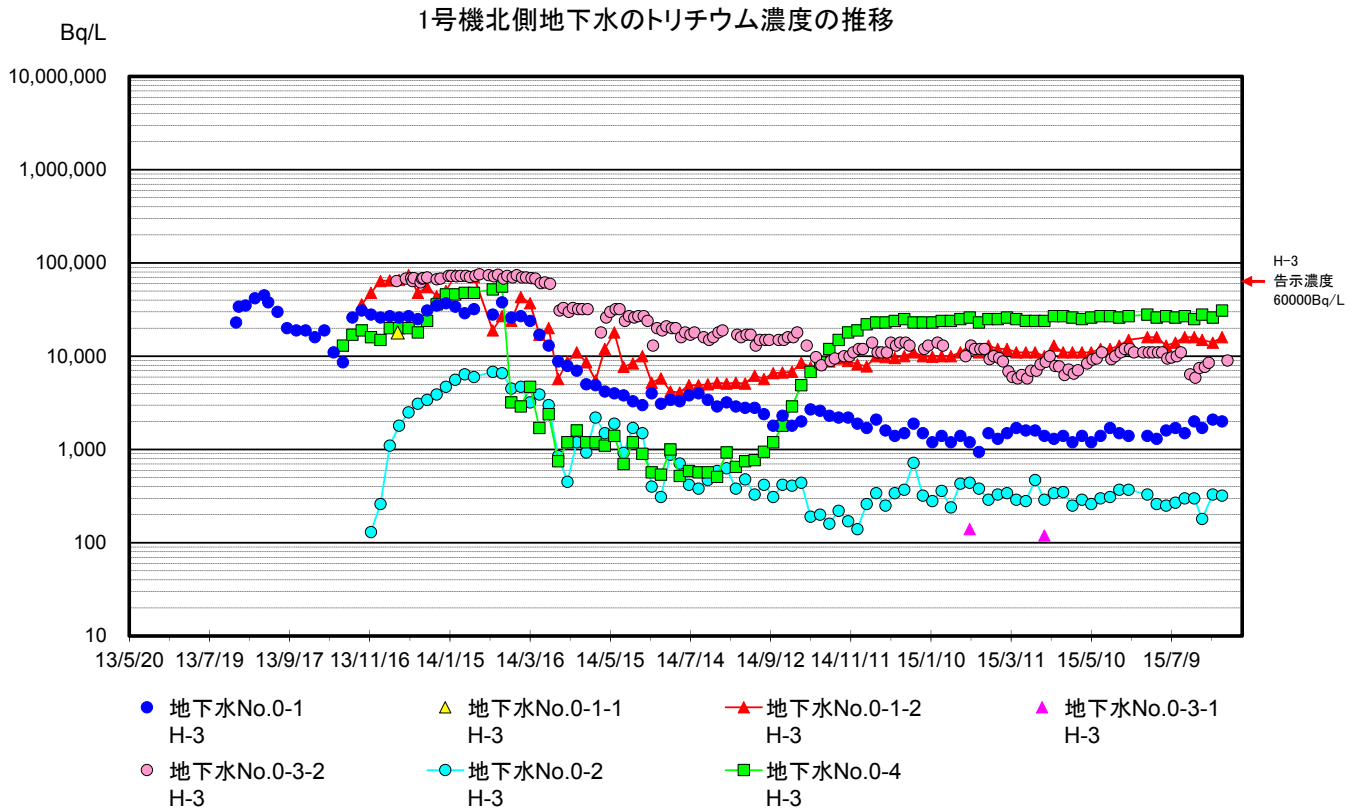
<2,3号機取水口間エリア>

- No.2-6で全β濃度が2,000Bq/L程度で推移し2014.11以降低下していたが、2015.6以降上昇が見られ、現在200Bq/L程度となっている。
- 地盤改良の海側のNo.2-7で全β濃度が20Bq/Lより徐々に上昇し1,000Bq/L前後で推移していたが、現在600Bq/L程度となっている。
- 2,3号機取水口間ウェルポイントのH-3濃度は2014.4から上昇し13,000Bq/L程度となり、その後低下傾向であったが、2015.7より上昇傾向にあり、現在1,000Bq/L程度となっている。全β濃度は10万Bq/L程度より低下傾向で推移していたが、3月より更に低下し、現在600Bq/L程度となっている。
- ウェルポイントの揚水量を地盤改良壁の地表処理のため4m³/日から50m³/日に変更。（2013.12.8～：2m³/日、2014.2.14～：4m³/日、2014.10.31～：50m³/日）

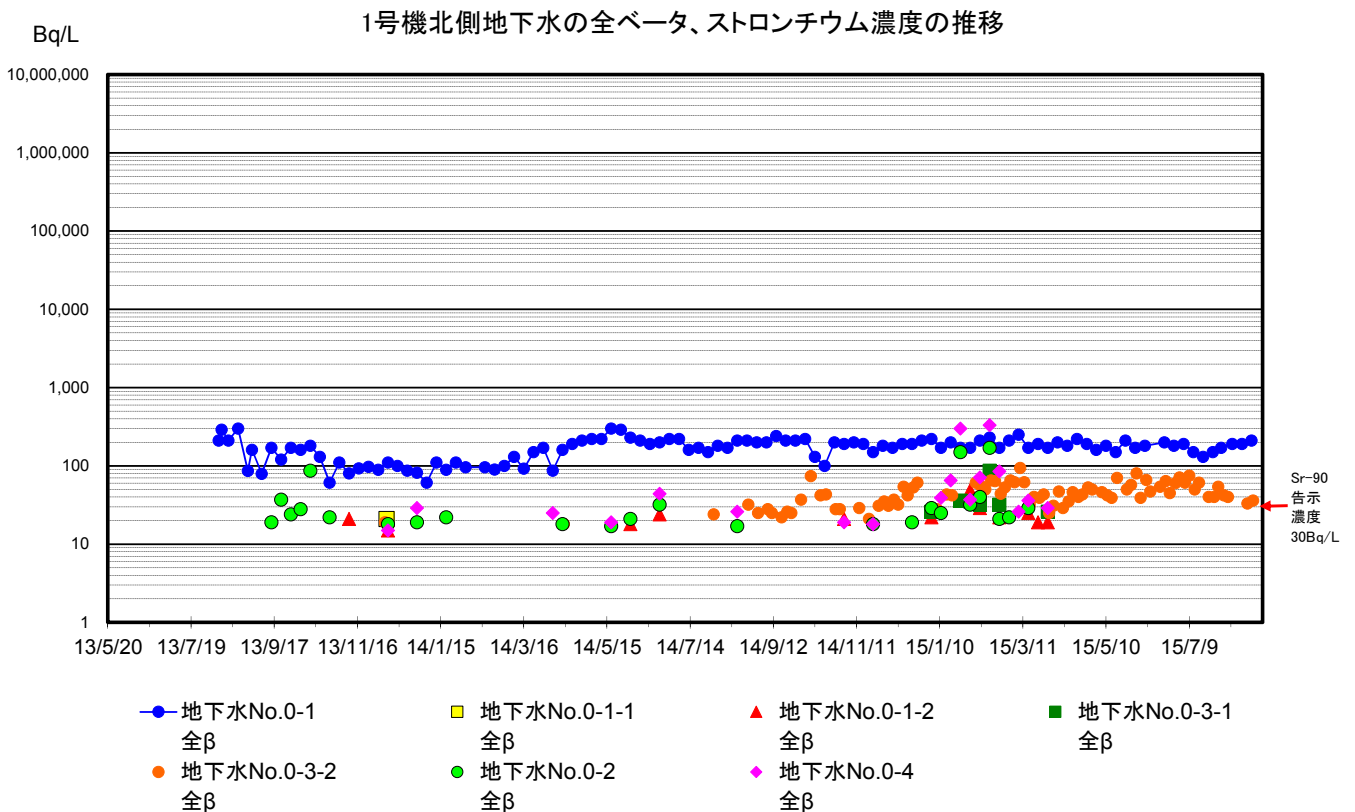
<3,4号機取水口間エリア>

- No.3-2でH-3、全β濃度について2015.2より低下が見られる。No.3-3でH-3濃度について2014.11より低下が見られる。
- 3,4号機取水口間ウェルポイントの揚水を開始。（2015.4.1～：20m³/日、4.24～：10m³/日）
- No.3でH-3、全β濃度、3,4号機取水口間ウェルポイントでH-3濃度について、2015.4より上昇が見られる。

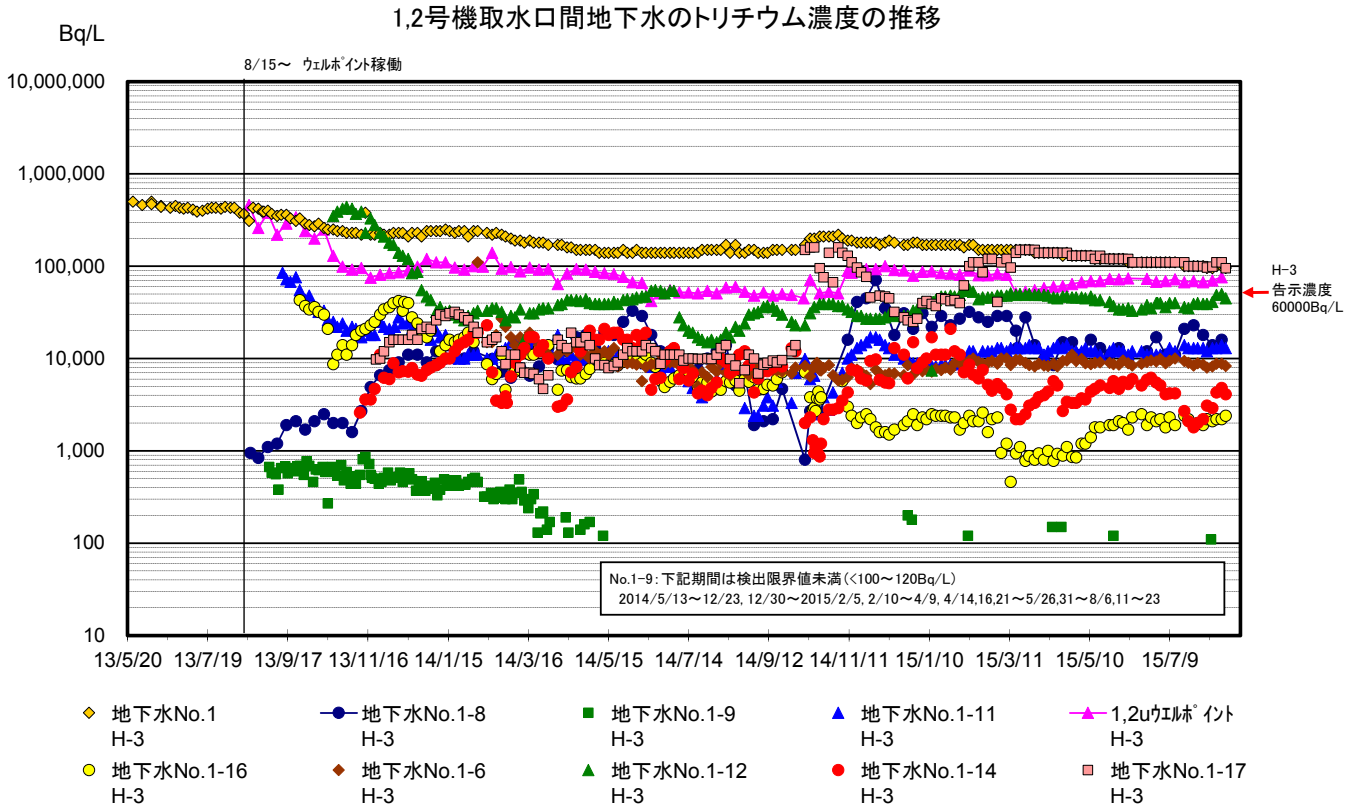
1号機北側の地下水の濃度推移(1/2)



1号機北側の地下水の濃度推移(2/2)



1,2号機取水口間の地下水の濃度推移(1/2)

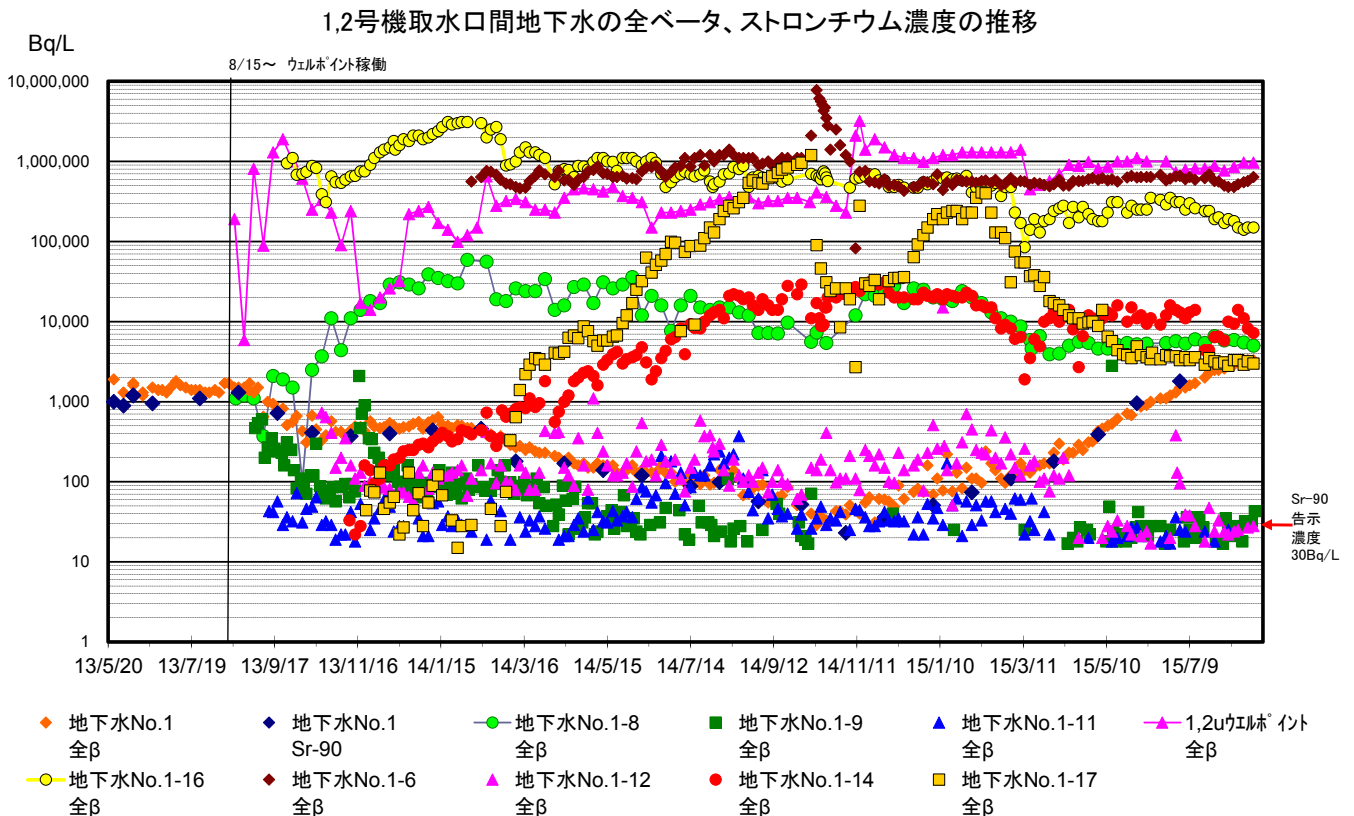


東京電力

無断複写・転載禁止 東京電力株式会社

8

1,2号機取水口間の地下水の濃度推移(2/2)

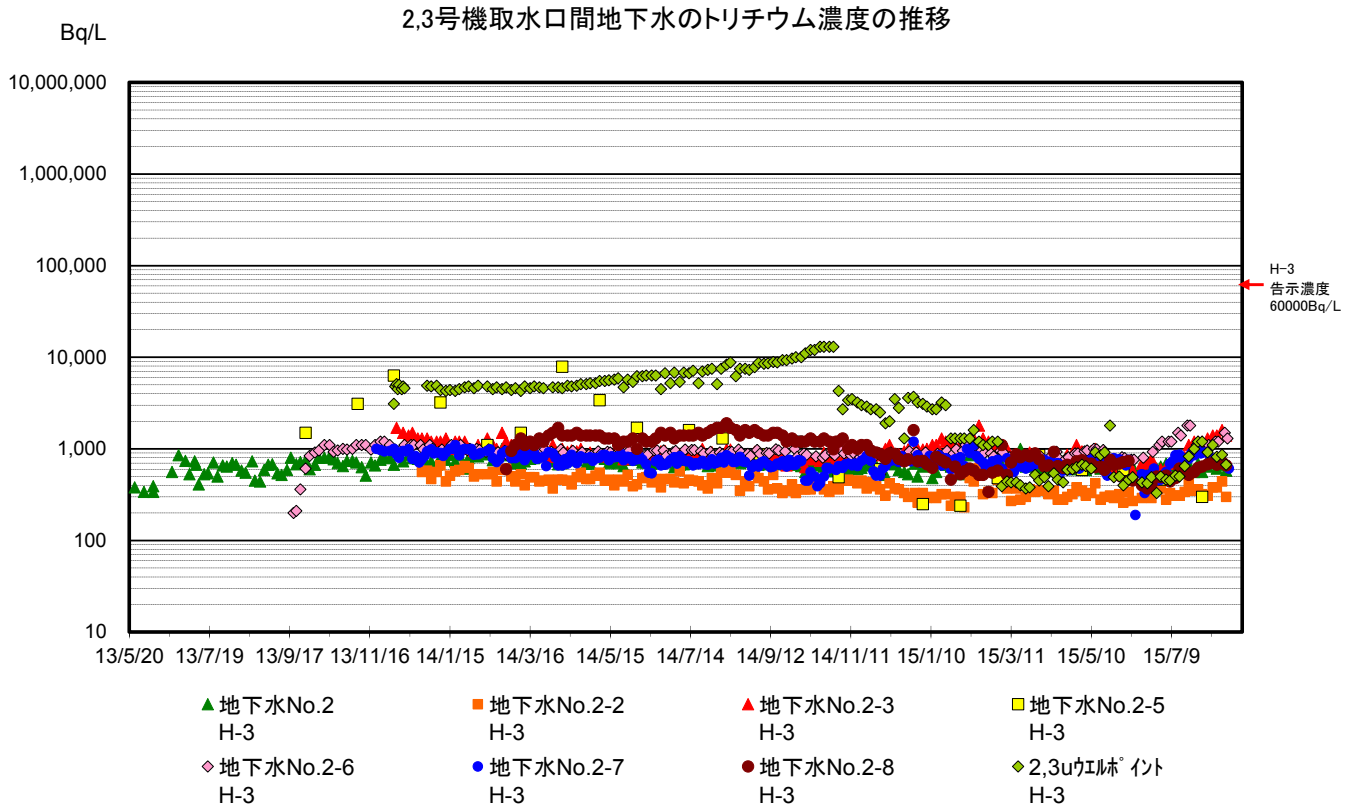


東京電力

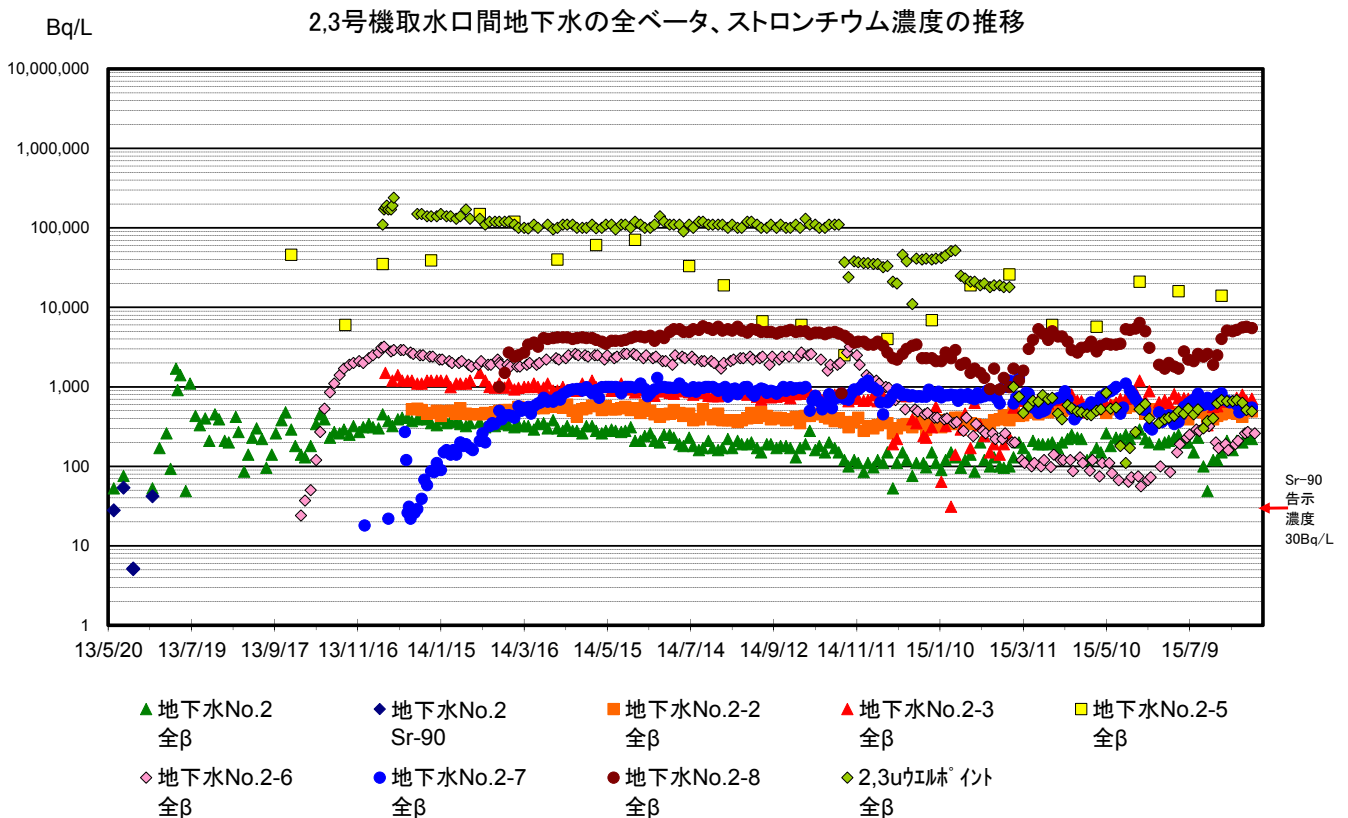
無断複写・転載禁止 東京電力株式会社

9

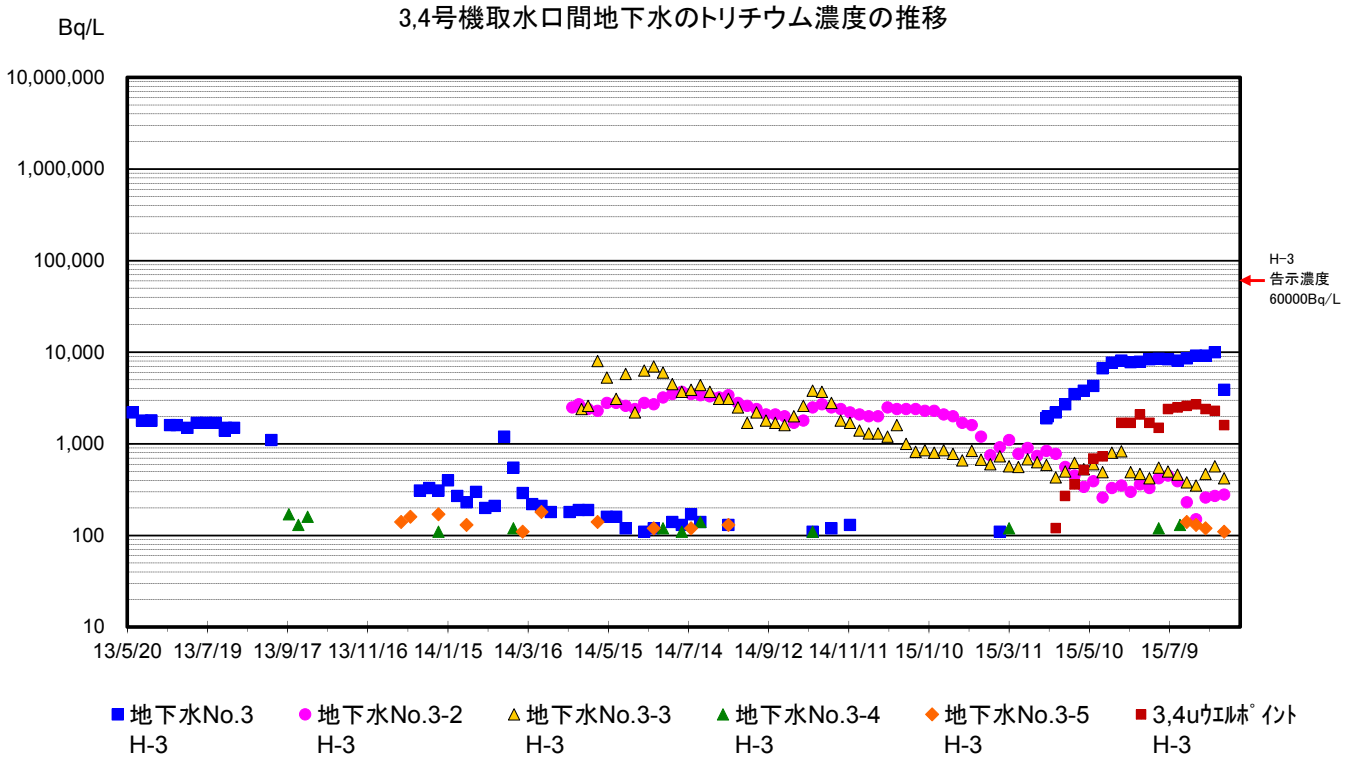
2,3号機取水口間の地下水の濃度推移(1/2)



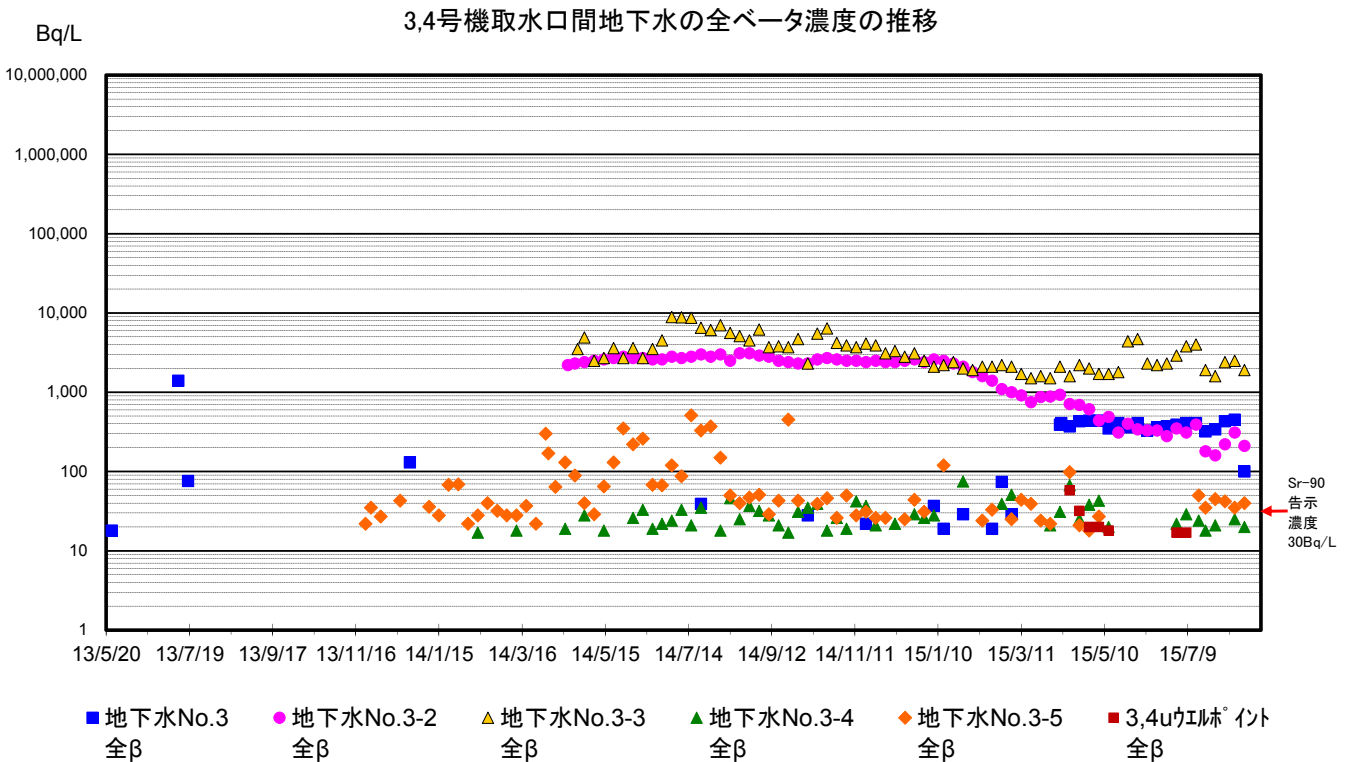
2,3号機取水口間の地下水の濃度推移(2/2)



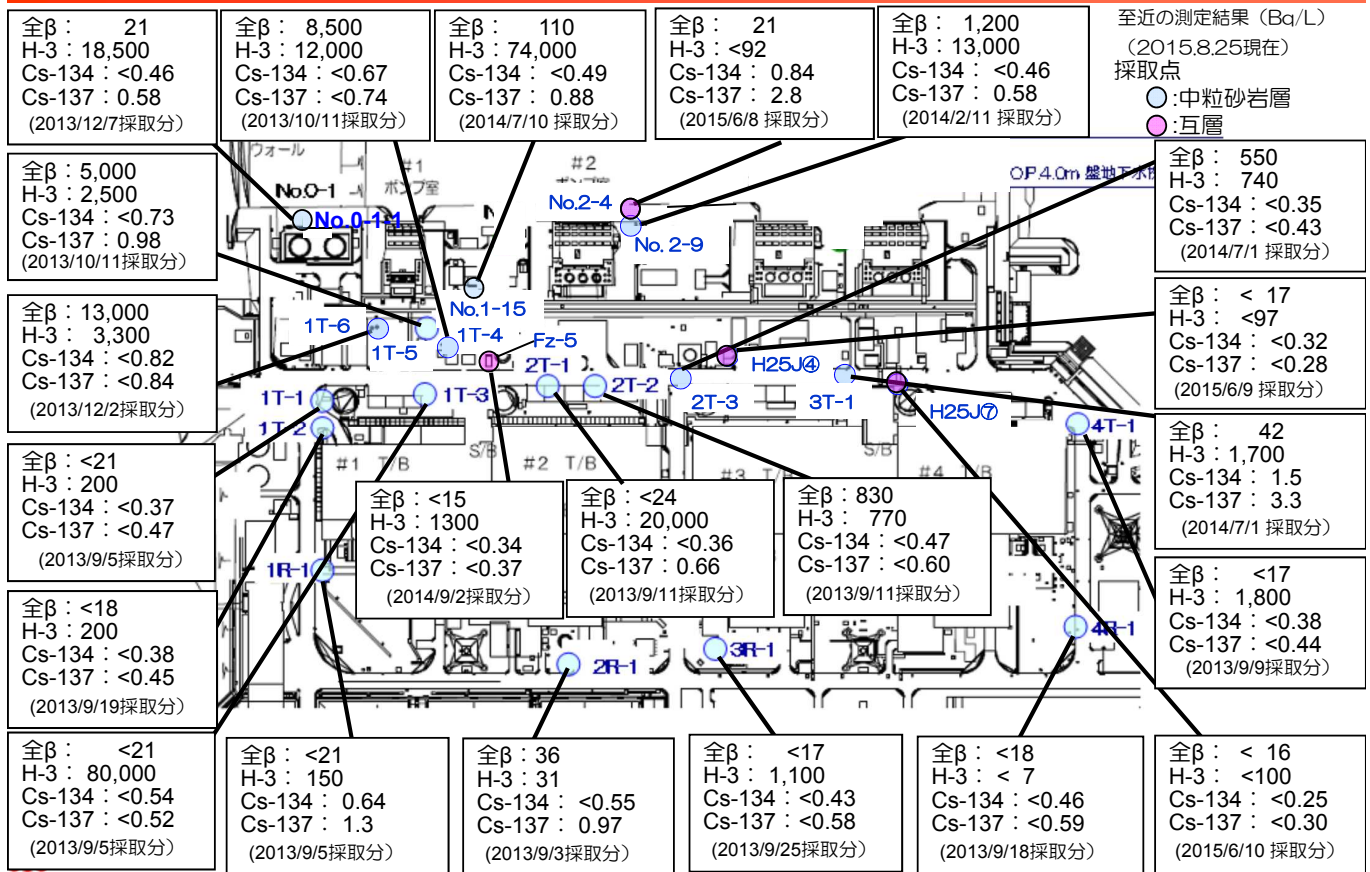
3,4号機取水口間の地下水の濃度推移(1/2)



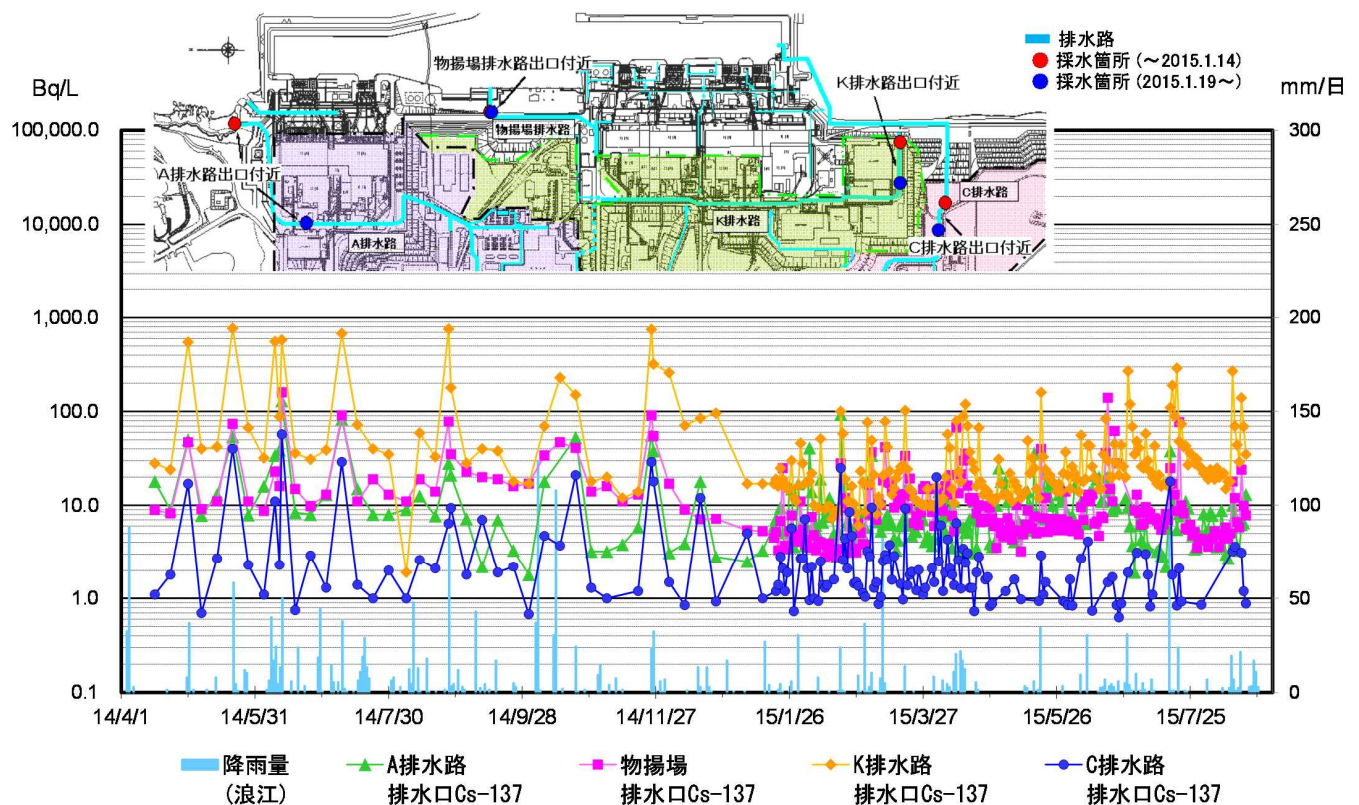
3,4号機取水口間の地下水の濃度推移(2/2)



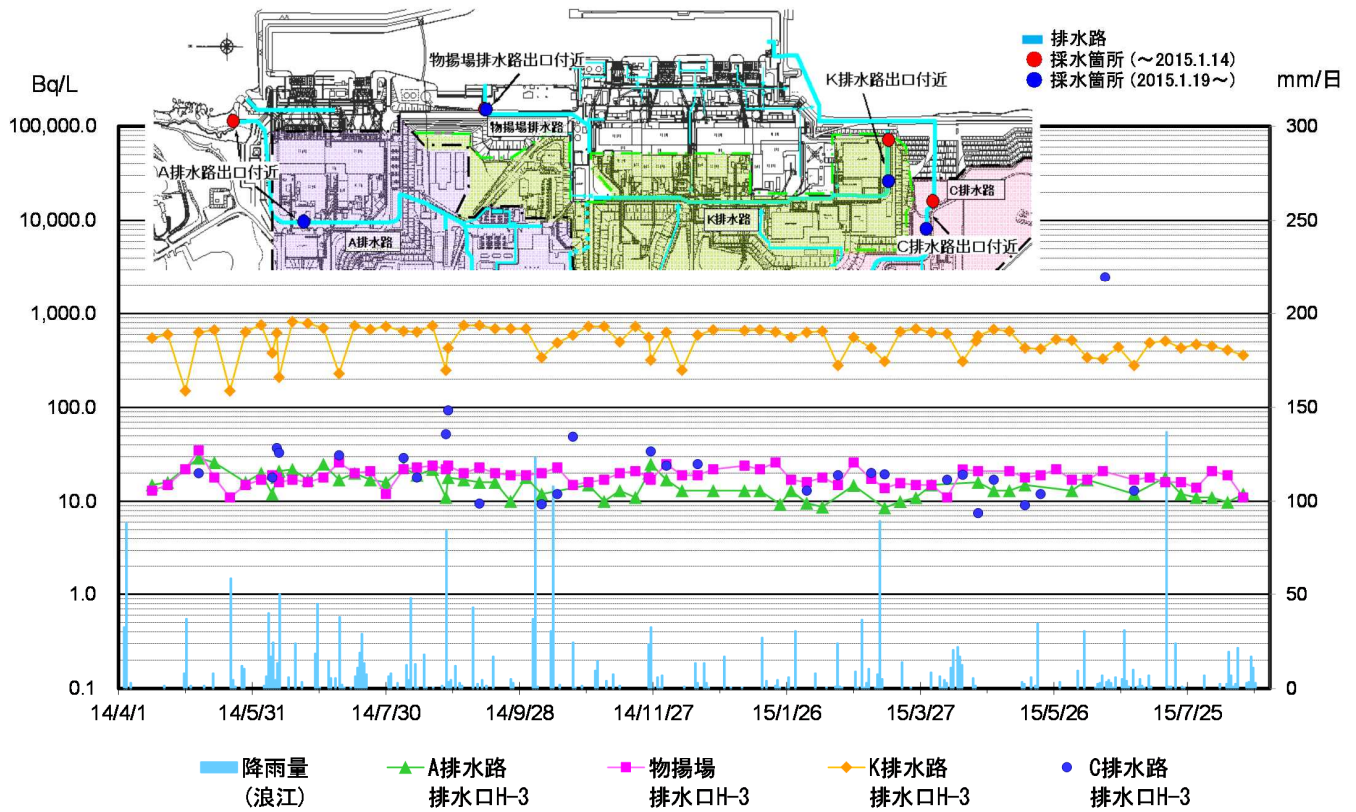
建屋周辺の地下水濃度測定結果



排水路における放射性物質濃度(1/3)



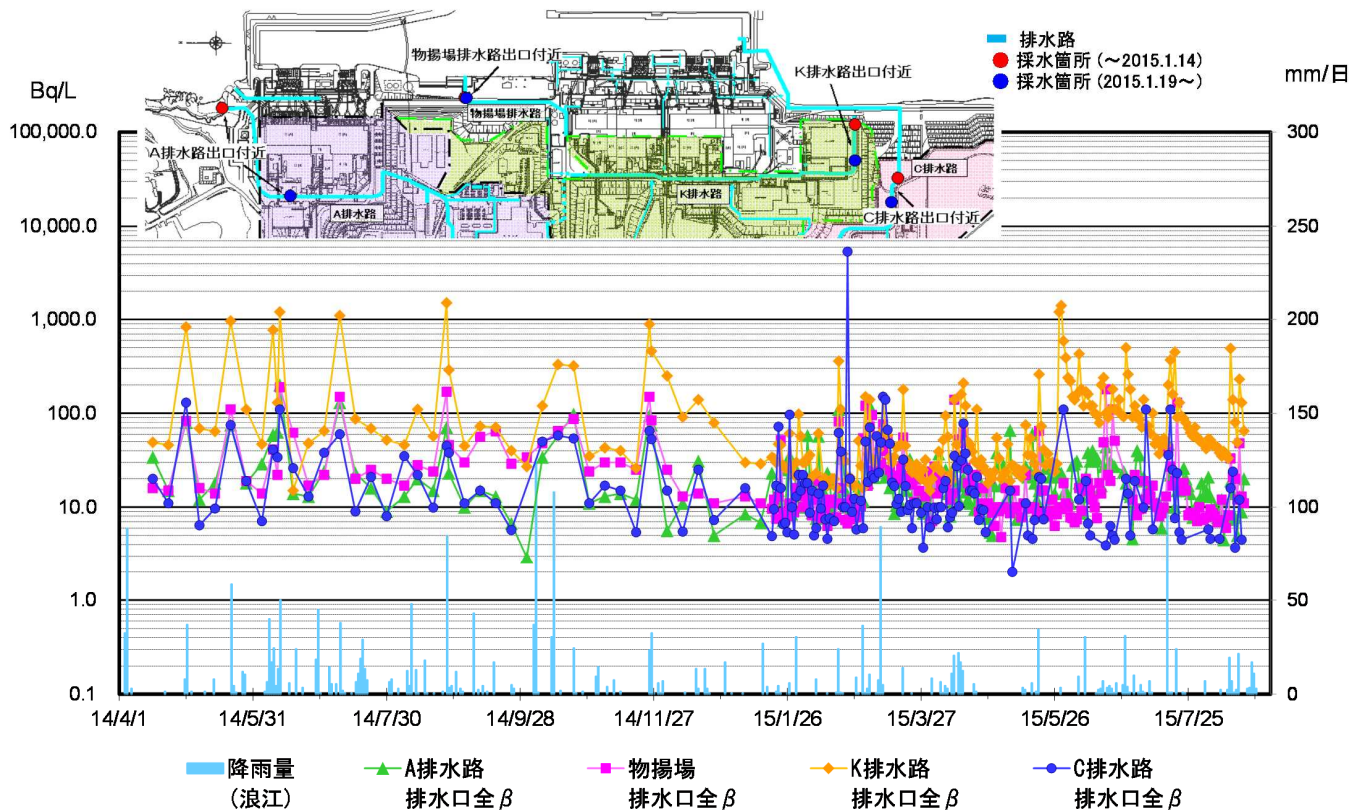
排水路における放射性物質濃度(2/3)



東京電力

無断複写・転載禁止 東京電力株式会社

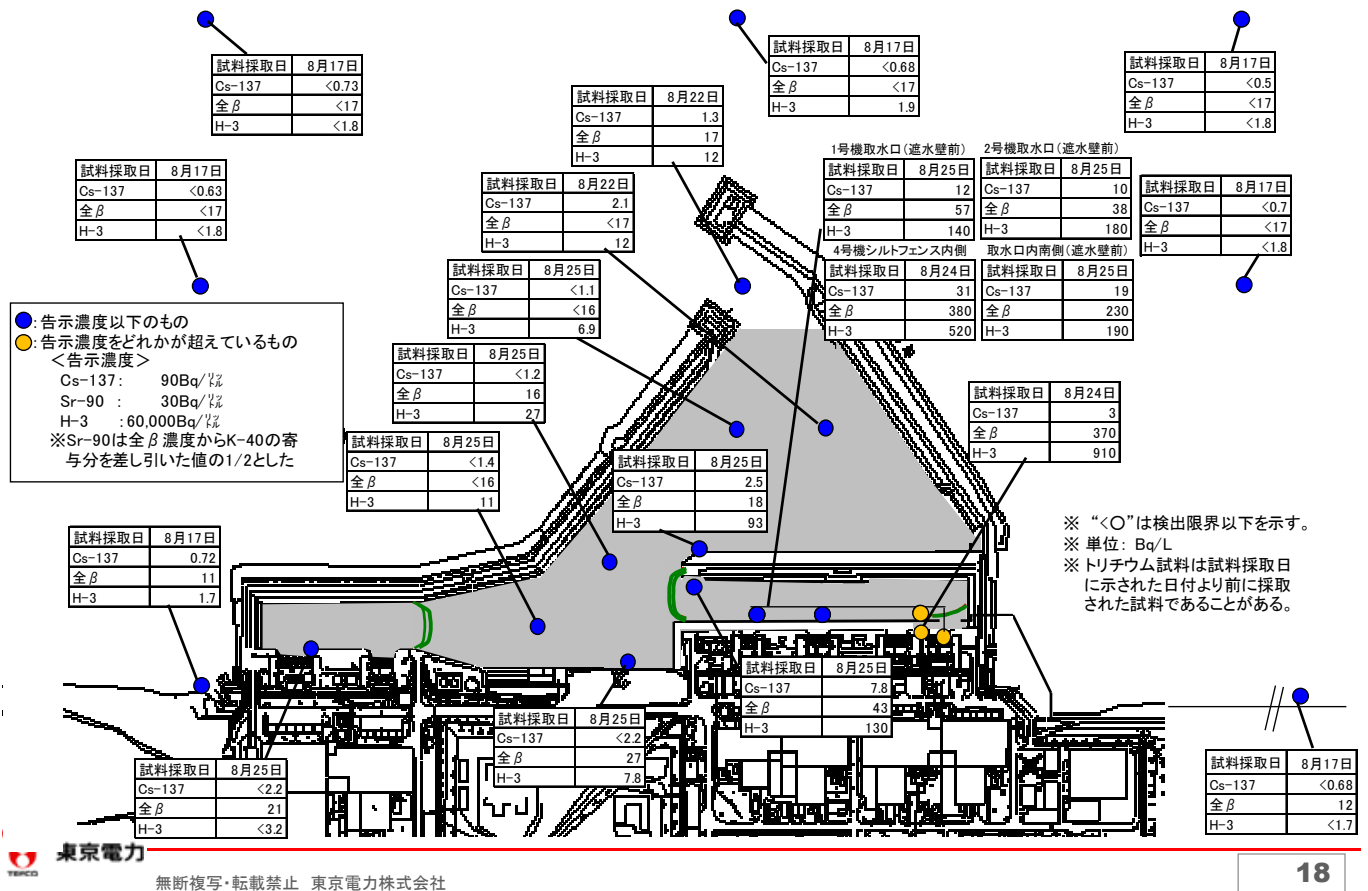
排水路における放射性物質濃度(3/3)



東京電力

無断複写・転載禁止 東京電力株式会社

港湾内外の海水濃度



港湾内外の海水濃度の状況

<1~4号機取水口エリア>

- 遮水壁内側の埋立工事の進捗に伴い、海側遮水壁の内側では3月以降、H-3、全β濃度の上昇が見られ、現在は高めの濃度で推移している。
- 遮水壁の外側についてはCs-137、H-3、全β濃度とも東波除堤北側と同レベルで低い濃度で推移している。

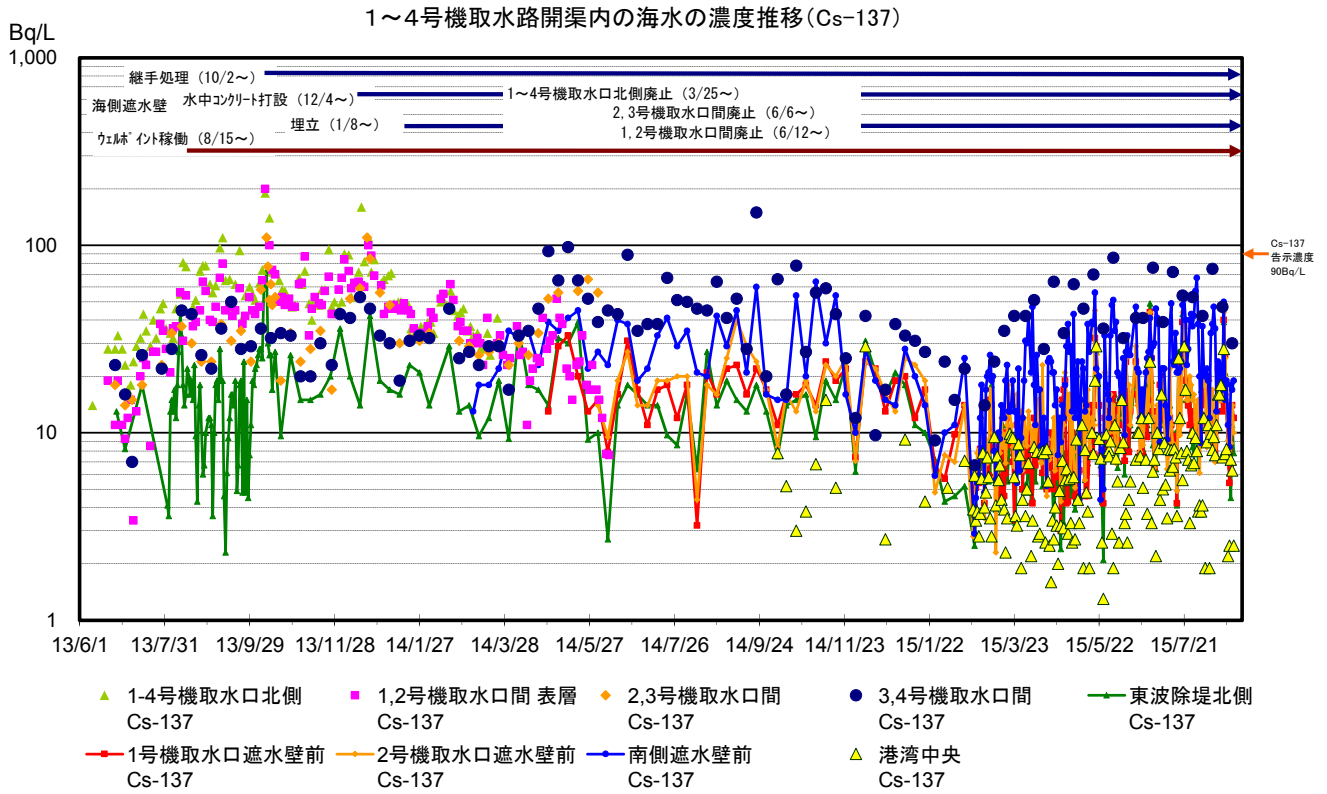
<港湾内エリア>

- 低い濃度で推移している。

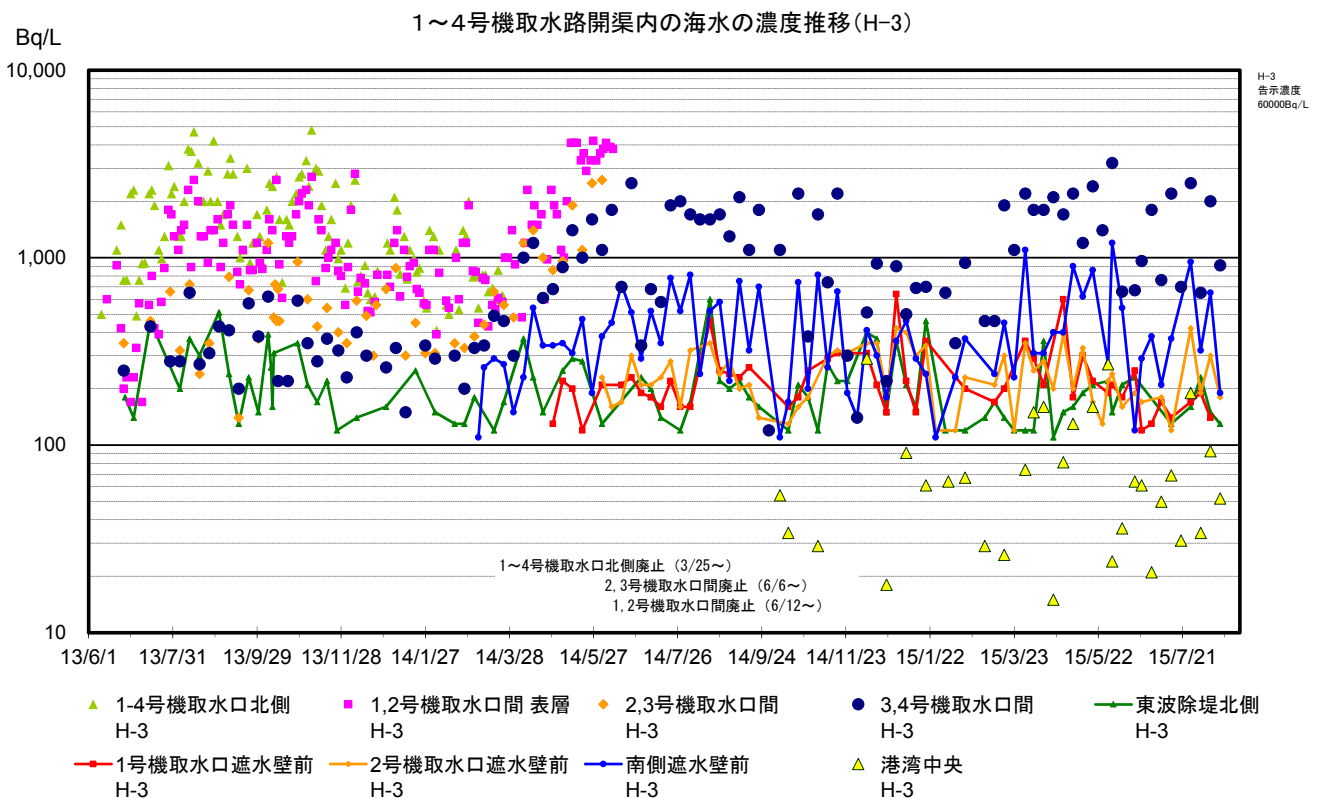
<港湾外エリア>

- Cs-137、H-3はこれまでの変動の範囲で推移
- 港湾外エリアの全β濃度について、これまで検出限界値未満（15~18Bq/l）が継続していたが、2015.3下旬以降、検出限界値と同程度の濃度が検出されている。
- 港湾口北東側の全β濃度について、6/15に24Bq/lが検出されているが、港湾口、5,6号機放水口北側、南放水口付近のSr-90は低い濃度で推移している。
- なお、5,6号機放水口北側、南放水口付近の全β濃度に変動は見られていない。

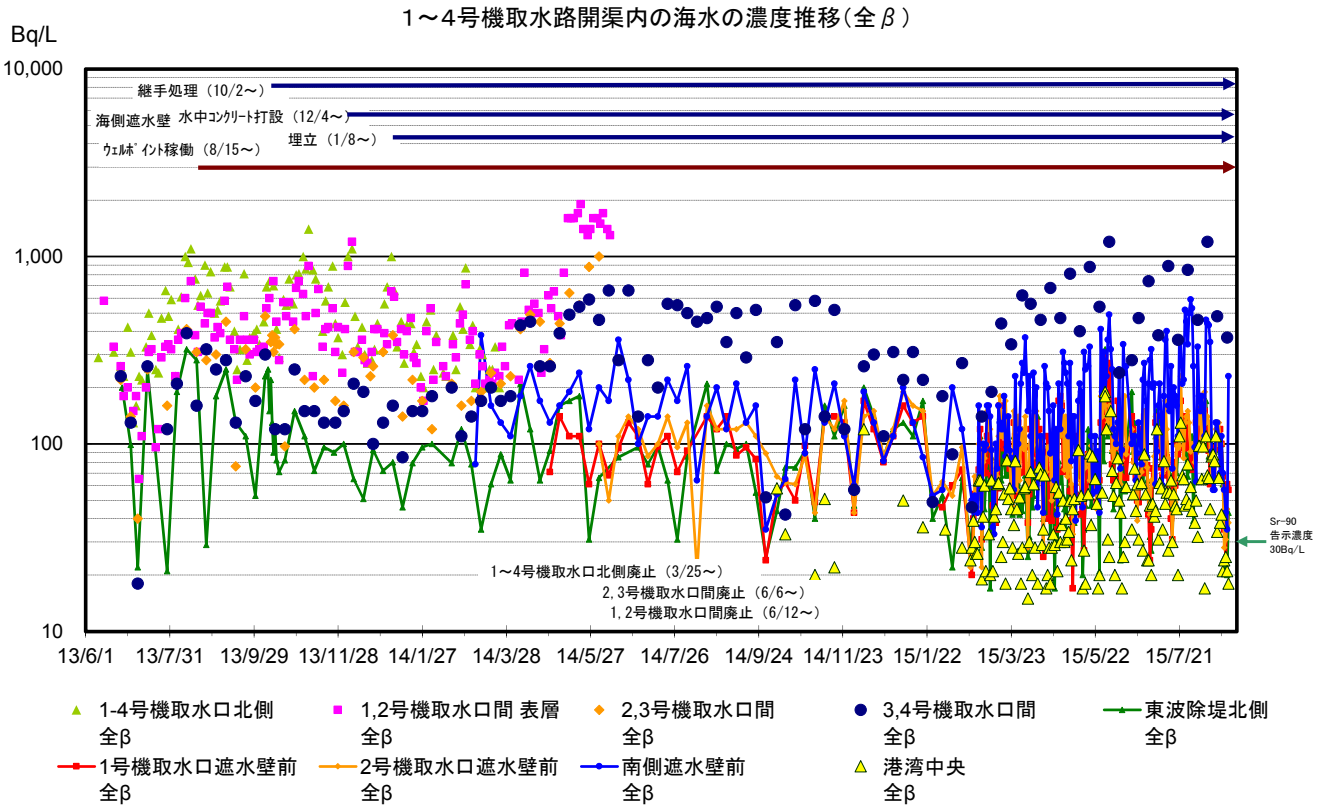
1～4号機取水路開渠内の海水の濃度推移(1/3)



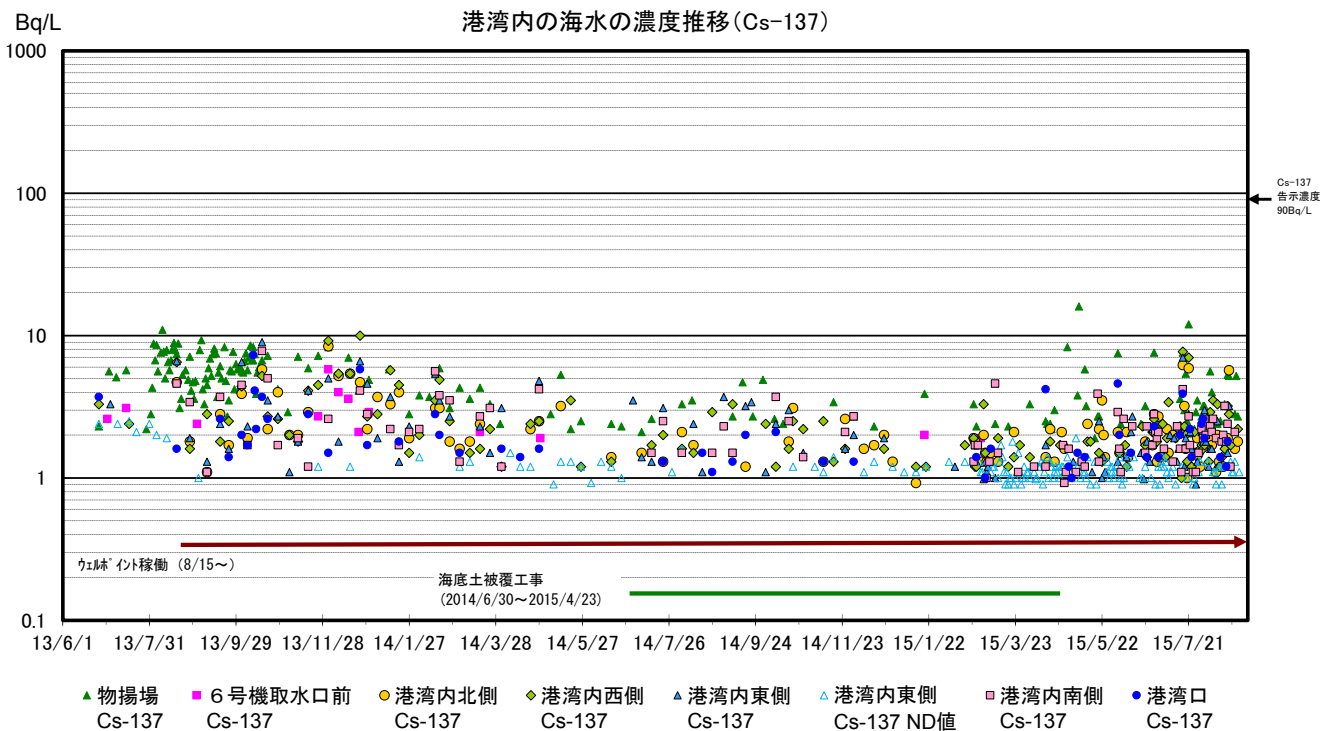
1～4号機取水路開渠内の海水の濃度推移(2/3)



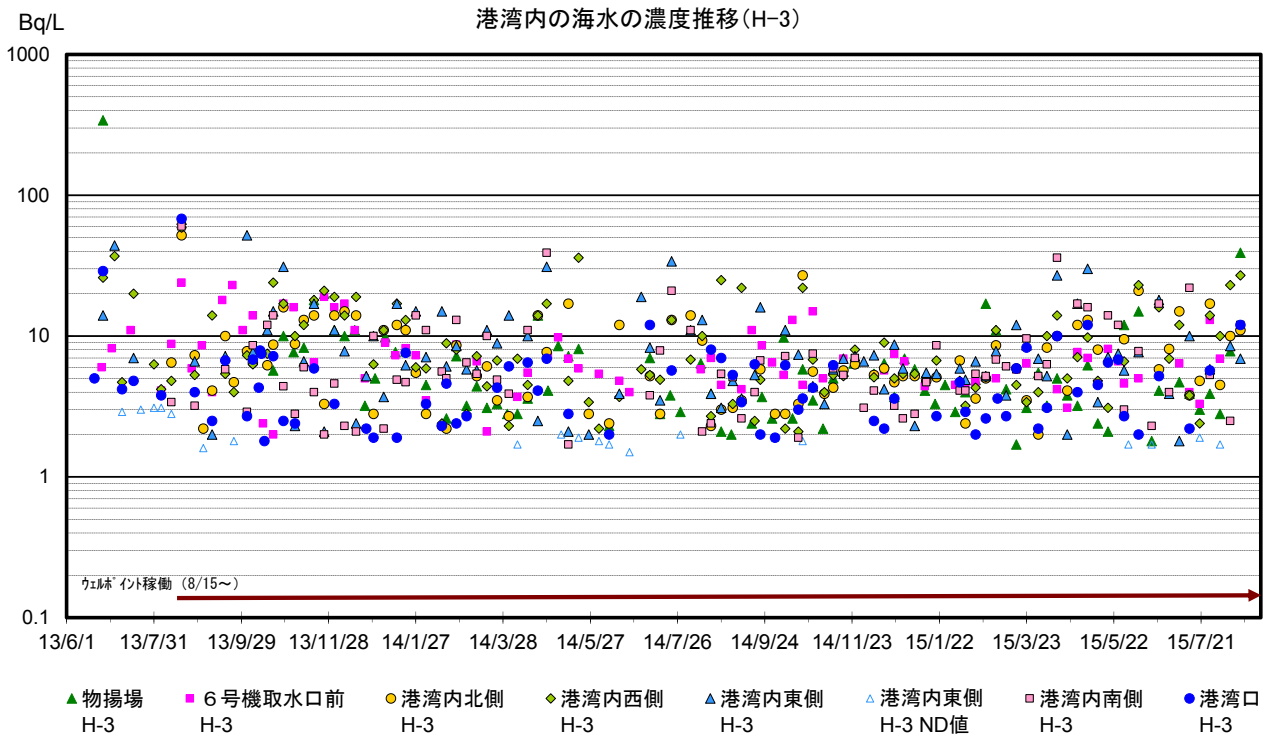
1～4号機取水路開渠内の海水の濃度推移(3/3)



港湾内の海水の濃度推移(1/3)



港湾内の海水の濃度推移(2/3)

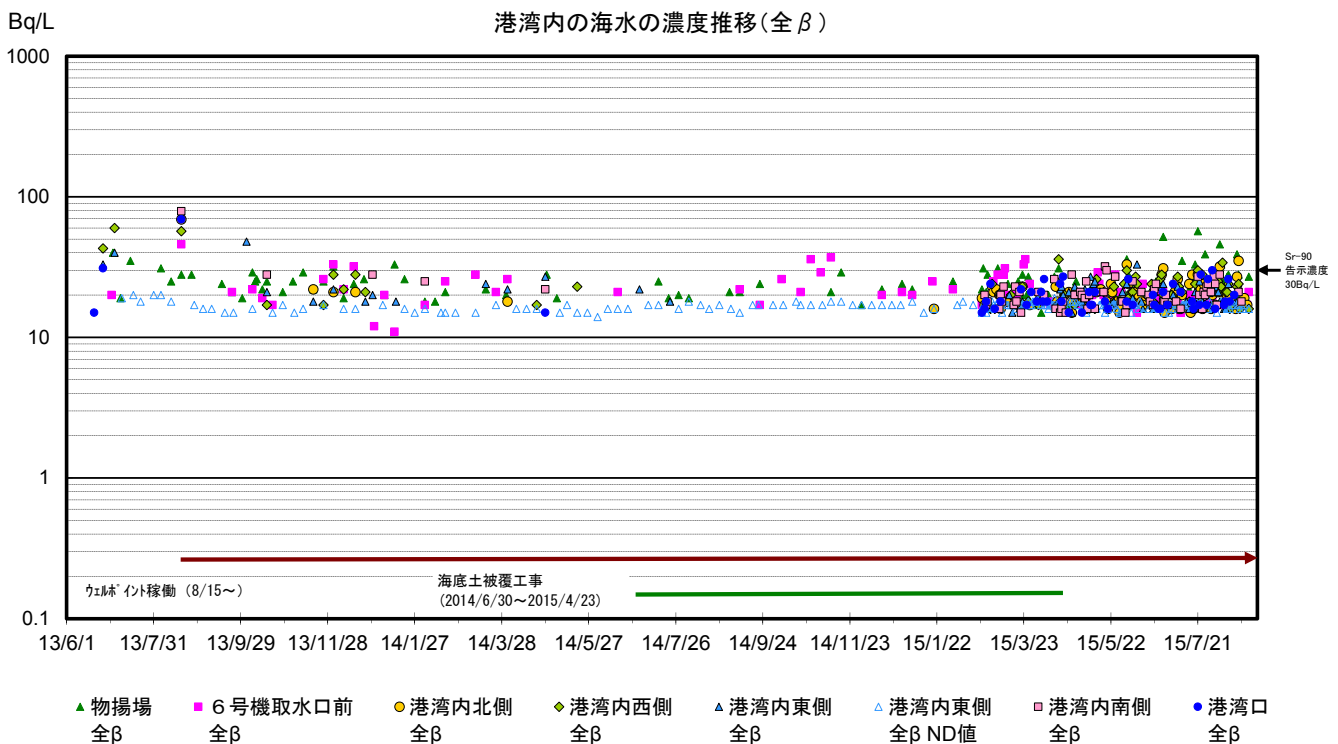


東京電力

無断複写・転載禁止 東京電力株式会社

24

港湾内の海水の濃度推移(3/3)

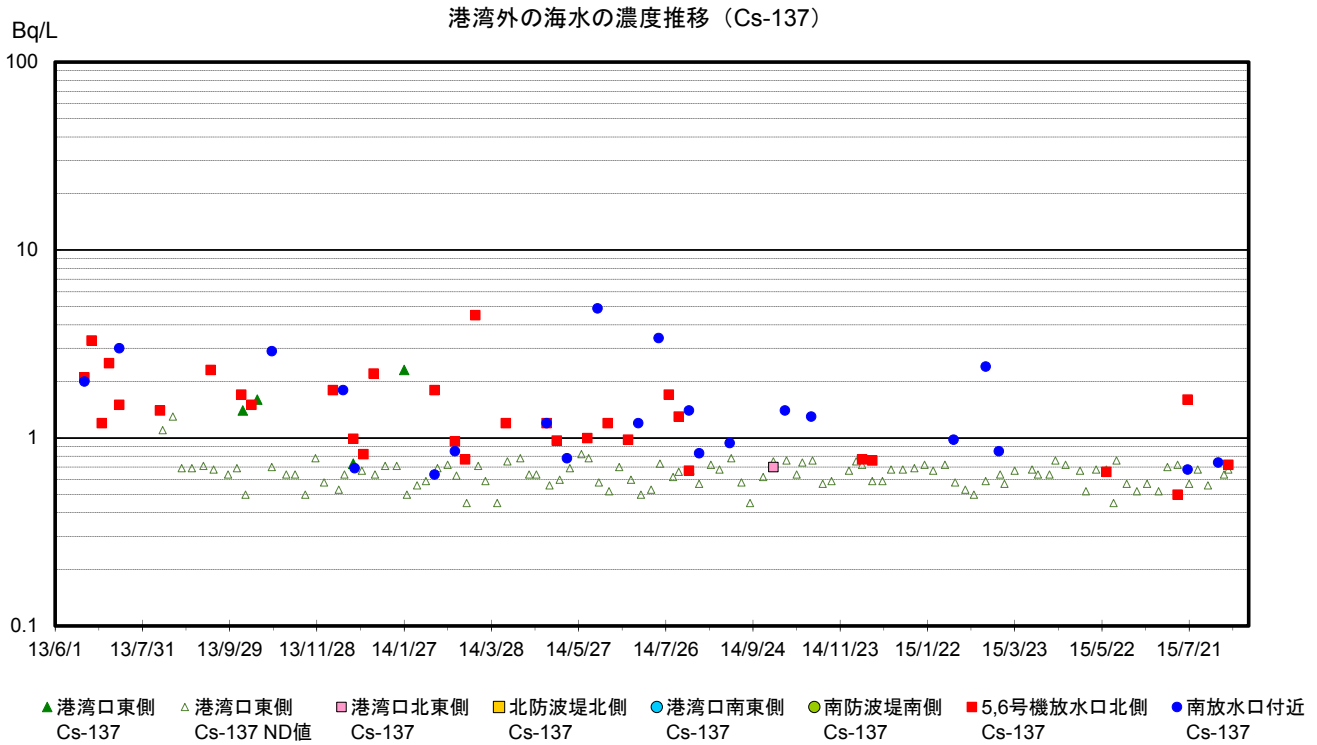


東京電力

無断複写・転載禁止 東京電力株式会社

25

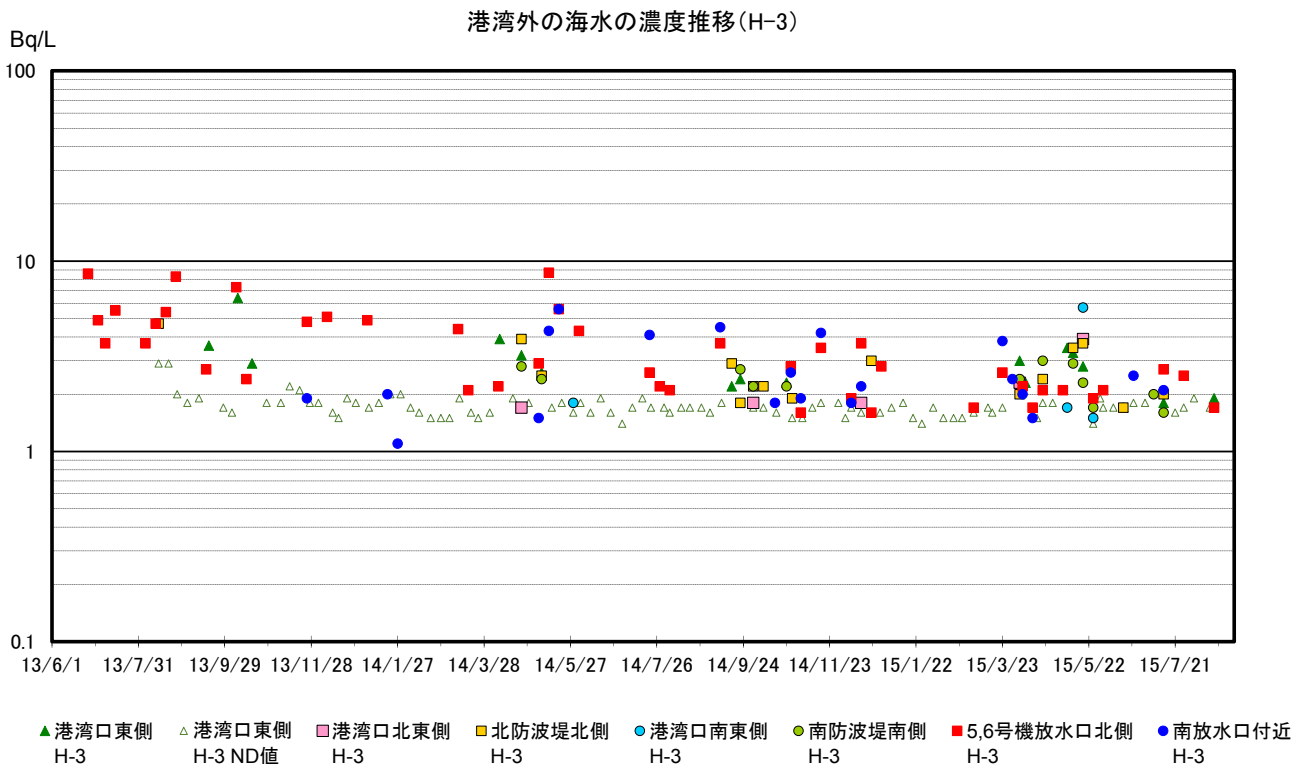
港湾外の海水の濃度推移(1/4)



東京電力

無断複写・転載禁止 東京電力株式会社

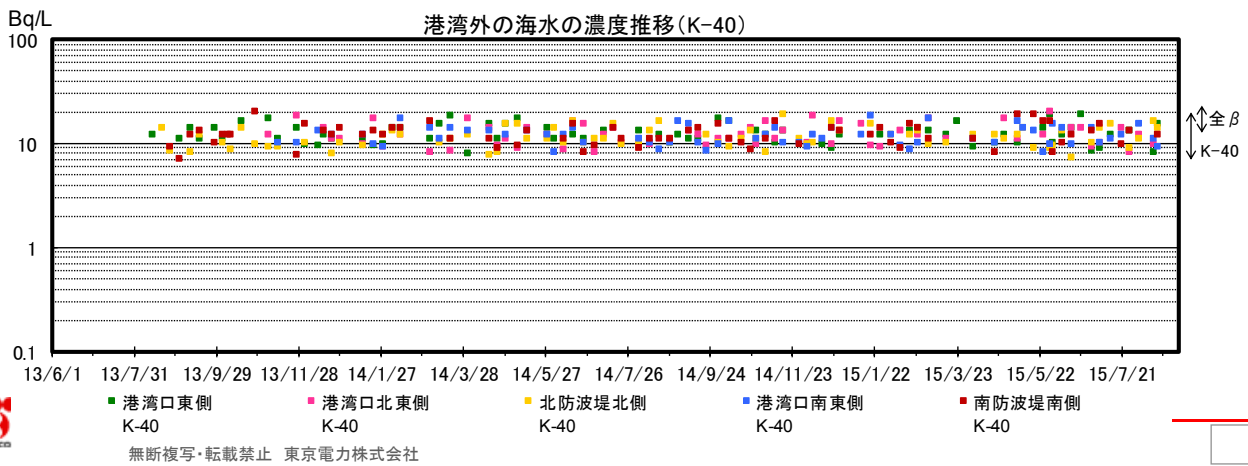
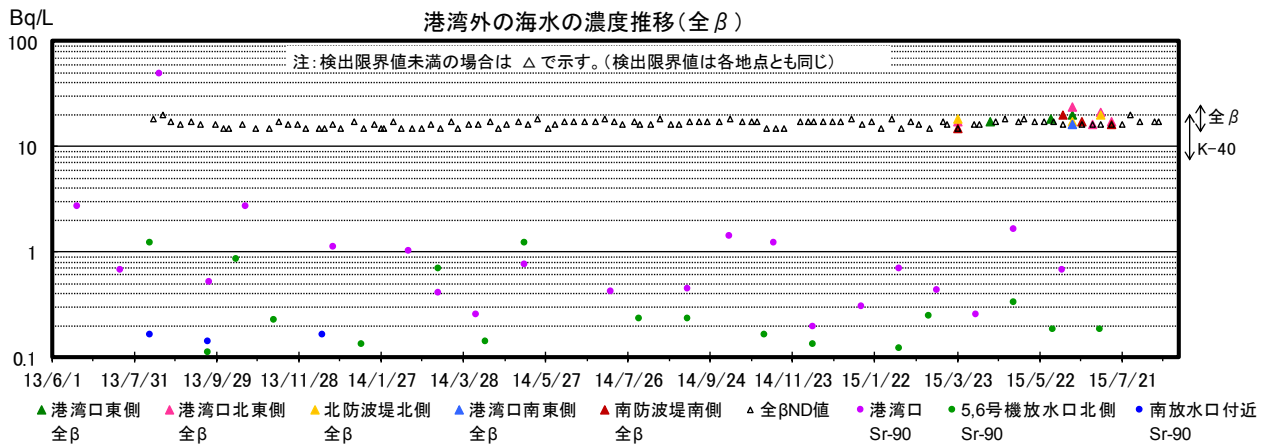
港湾外の海水の濃度推移(2/4)



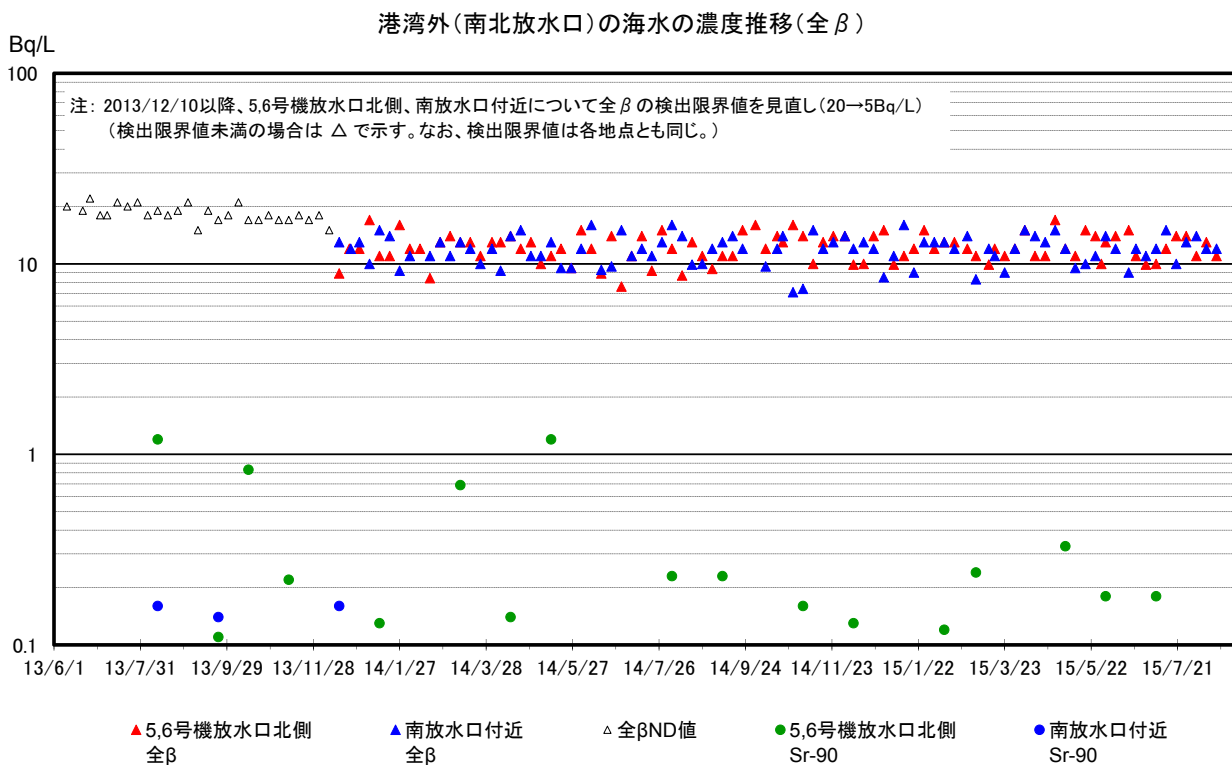
東京電力

無断複写・転載禁止 東京電力株式会社

港湾外の海水の濃度推移(3/4)

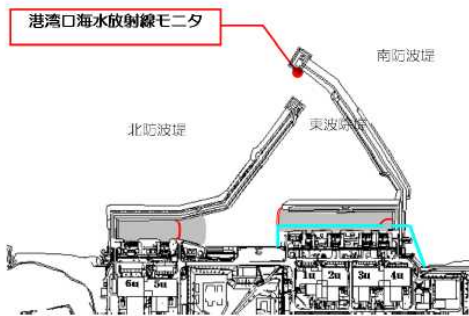
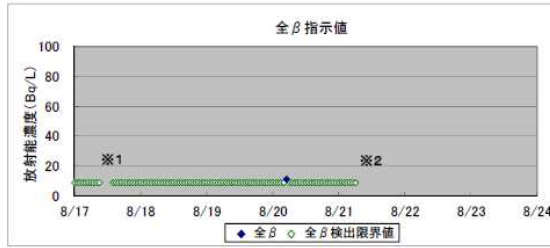
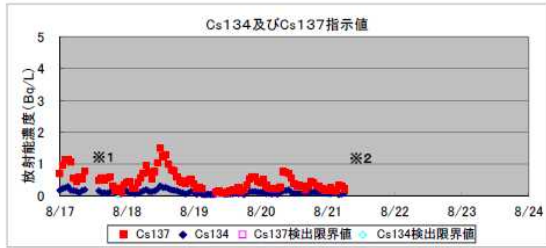


港湾外の海水の濃度推移(4/4)



<参考> 港湾口海水モニタの測定結果

港湾口海水放射線モニタ指示値 (2015年8月17日 ~ 8月23日 分)



日時	全β	Cs134	Cs137
2015/8/23 0:00	ND	ND	ND
2015/8/23 1:00	ND	ND	ND
2015/8/23 2:00	ND	ND	ND
2015/8/23 3:00	ND	ND	ND
2015/8/23 4:00	ND	ND	ND
2015/8/23 5:00	ND	ND	ND
2015/8/23 6:00	ND	ND	ND
2015/8/23 7:00	ND	ND	ND
2015/8/23 8:00	ND	ND	ND
2015/8/23 9:00	ND	ND	ND
2015/8/23 10:00	ND	ND	ND
2015/8/23 11:00	ND	ND	ND
2015/8/23 12:00	ND	ND	ND
2015/8/23 13:00	ND	ND	ND
2015/8/23 14:00	ND	ND	ND
2015/8/23 15:00	ND	ND	ND
2015/8/23 16:00	ND	ND	ND
2015/8/23 17:00	ND	ND	ND
2015/8/23 18:00	ND	ND	ND
2015/8/23 19:00	ND	ND	ND
2015/8/23 20:00	ND	ND	ND
2015/8/23 21:00	ND	ND	ND
2015/8/23 22:00	ND	ND	ND
2015/8/23 23:00	ND	ND	ND
平均値			

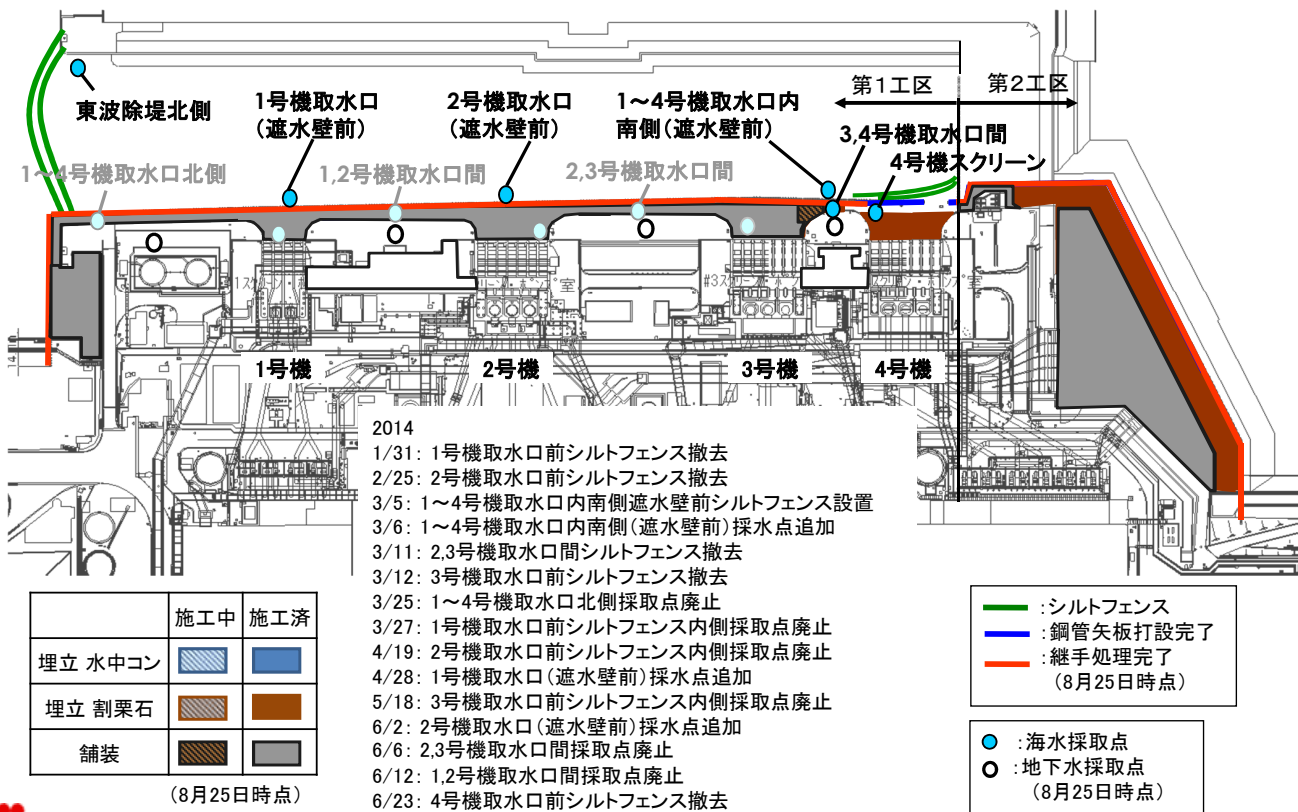
NDは検出限界値未満を表す。

<備考>
 (検出限界値 Bq/L)
 ・セシウム(Cs)134 : 0.02
 ・セシウム(Cs)137 : 0.05
 ・全β : 8.7
 (注) 海水放射線モニタは、荒天により海上が荒れた場合、巻上がった海底砂の影響等により、データが変動する場合があります。
 また、β線モニタについては、ストロンチウム90のモニタリングを目的としていますが、現状ストロンチウム90のみを連続測定する事は難しい為、海水中に存在するβ線を放出する全ての核種を測定しております。
 ストロンチウム90は、これまでの分析結果で1Bq/L以下の低いレベルとなっておりますので、全β放射能の値は、通常天然核種であるカリウム40(十数Bq/L)の影響を受けております。
 ※1: 8月17日10:00~13:00の時間帯については、点検保守作業により欠測しております。
 ※2: 8月21日7:00以降については、取水ポンプの停止(ストレーナ差圧高)により欠測しております。今後、海上の状況を確認しながら、復旧作業を実施いたします。
 (参考)
 東京電力株式会社福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防漏に関する規制に定める告示濃度限度値は以下の通り
 ・セシウム(Cs)134:60 Bq/L
 ・セシウム(Cs)137:90 Bq/L
 手汲み分析結果(8月17日13:00採取分)
 ・セシウム(Cs)137:0.55 Bq/L セシウム(Cs)134:0.09 Bq/L



無断複写・転載禁止 東京電力株式会社

海側遮水壁設置工事の進捗と海水採取点の見直し



無断複写・転載禁止 東京電力株式会社